

2021年3月期（第121期）
（2020年4月1日～2021年3月31日）

芦森グループ決算説明資料

連結業績は、売上高 51,248百万円、
営業利益 359百万円、経常利益 419百万円、
親会社株主に帰属する当期純損失 433百万円となりました。

2021年 5月 14日

芦森工業株式会社

I . 2021年3月期（第121期）実績

2021年3月期業績は 前期比で減収減益

	2020年3月期 実績 (百万円)	2021年3月期 実績 (百万円)	前期比	
			(百万円)	(%)
売上高	58,295	51,248	▲ 7,046	▲ 12.1
営業利益	599	359	▲ 240	▲ 40.1
（営業利益率）	1.0%	0.7%	-	▲ 0.3
経常利益	652	419	▲ 232	▲ 35.7
特別損益	2,949	▲ 240	▲ 3,190	-
税金等調整前 当期純利益	3,601	178	▲ 3,423	▲ 95.0
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,045	▲ 433	▲ 2,479	-

原価低減や間接経費の削減に取り組み、収益や成長が見込まれる分野・地域への拡販を推進したが、新型コロナウイルス感染症の影響を挽回するには至らず、減収減益となった。

		2020年3月期 実績 (百万円)	2021年3月期 実績 (百万円)	前期比	
				(百万円)	(%)
自動車安全部品事業	売上高	39,271	33,594	▲ 5,677	▲ 14.5
	営業利益	▲ 1,356	▲ 1,278	77	-
	(営業利益率)	▲ 3.5%	▲ 3.8%	-	▲ 0.4
機能製品事業	売上高	18,998	17,621	▲ 1,377	▲ 7.2
	営業利益	3,262	2,845	▲ 417	▲ 12.8
	(営業利益率)	17.2%	16.1%	-	▲ 1.0
不動産収入、本社経費他	売上高	24	32	7	30.7
	営業利益	▲ 1,307	▲ 1,207	100	-
合 計	売上高	58,295	51,248	▲ 7,046	▲ 12.1
	営業利益	599	359	▲ 240	▲ 40.1
	(営業利益率)	1.0%	0.7%	-	▲ 0.3

自動車安全部品事業

特に年度前半に国内及び海外現地法人ともに新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、主要顧客の生産調整に伴いシートベルト関連、エアバッグ関連、内装品関連とも販売が低迷。

また、製造拠点の操業度の大幅な低下、商品構成の変化や物流単価の上昇等により、採算が大幅に悪化したことに加え、海外連結子会社において売上債権の貸倒引当金繰入額を計上した。

機能製品事業

パルテム関連…農業用水分野や電力分野の受注が増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり主力の下水道分野が伸び悩み、売上・利益ともに減少。

防災関連………消防用ホースの販売が低迷したが、災害対策用排水ホースが期を通じて順調に推移し、売上・利益ともに増加。

産業資材関連…新型コロナウイルス感染症の影響を受けロープの販売が低調に推移したほか、高機能資材織物(タイミングベルト関連)の需要が減少し、売上・利益ともに減少。

(単位：百万円)	2020年3月 期末	2021年3月 期末	前期末比	
流動資産	30,029	29,740	▲ 288	▪ 棚卸資産の低減に注力し、 流動資産が減少。
固定資産	17,855	17,114	▲ 740	
資産合計	47,884	46,855	▲ 1,029	
有利子負債	14,246	14,226	▲ 20	▪ 設備投資の抑制により、 固定資産が減少。
その他負債	16,834	16,338	▲ 495	
負債合計	31,080	30,564	▲ 515	▪ 仕入債務の減少等により、 その他負債が減少。
資本金	8,388	8,388	0	
資本剰余金	1,632	1,632	0	
利益剰余金	7,197	6,610	▲ 586	
自己株式	▲ 165	▲ 157	8	
その他の包括利益累計額	▲ 286	▲ 225	61	
新株予約権	21	24	2	
非支配株主持分	16	17	0	
純資産の部合計	16,804	16,290	▲ 513	
負債及び純資産の部合計	47,884	46,855	▲ 1,029	
自己資本比率	35.0%	34.7%	▲ 0.3%	

	2020年3月期 実績 (百万円)	2021年3月期 実績 (百万円)	前期比 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 46	3,487	3,534
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 480	▲ 1,019	▲ 538
財務活動によるキャッシュ・フロー	928	▲ 221	▲ 1,149
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 30	15	46
現金及び現金同等物の増減額	370	2,262	1,891
現金及び現金同等物の期末残高	3,312	5,574	2,262

(単位：百万円)	2017/3 期	2018/3 期	2019/3 期	2020/3 期	2021/3 期
設備投資額	2,691	3,986	4,375	2,817	1,545
減価償却費	1,282	1,650	1,906	2,209	2,057

- 「営業活動によるキャッシュ・フロー」
棚卸資産の減少等により、前期比で改善した。
- 「投資活動によるキャッシュ・フロー」
2020年3月期は土地の売却があったため、前期比で悪化した。
- 「財務活動によるキャッシュ・フロー」
借入金の増加を抑制したため、前期比で悪化した。

Ⅱ. 2022年3月期（第122期）予想

2022年3月期は 前期比 増収増益の見込み

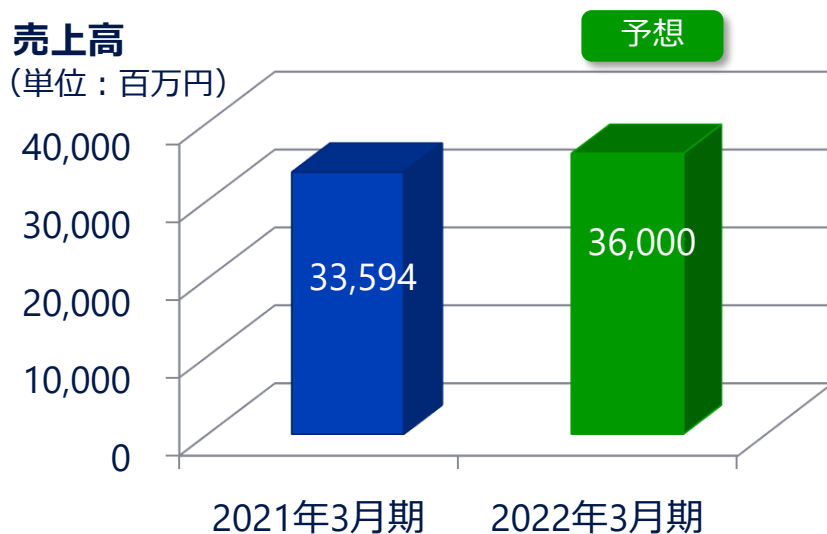
	2021年3月期 実績 (百万円)	2022年3月期 予想 (百万円)	前期比	
			(百万円)	(%)
売上高	51,248	54,000	2,751	5.4
営業利益	359	580	220	61.5
（営業利益率）	0.7%	1.1%	-	0.4
経常利益	419	530	110	26.2
特別損益	▲ 240	-	240	-
親会社株主に 帰属する 当期純利益	▲ 433	220	653	-

想定為替レート：104円/US\$, 120円/€

		2021年3月期 実績 (百万円)	2022年3月期 予想 (百万円)	前期比	
				(百万円)	(%)
自動車 安全部品 事業	売上高	33,594	36,000	2,405	7.2
	営業利益	▲ 1,278	▲ 440	838	-
	(営業利益率)	▲ 3.8%	▲ 1.2%	-	2.6
機能製品 事業	売上高	17,621	18,000	378	2.1
	営業利益	2,845	2,260	▲ 585	▲ 20.6
	(営業利益率)	16.1%	12.6%	-	▲ 3.6
不動産収入、 本社経費他	売上高	32	30	▲ 2	▲ 7.2
	営業利益	▲ 1,207	▲ 1,240	▲ 32	-
合 計	売上高	51,248	54,000	2,751	5.4
	営業利益	359	580	220	61.5
	(営業利益率)	0.7%	1.1%	-	0.4

売上高

(単位：百万円)



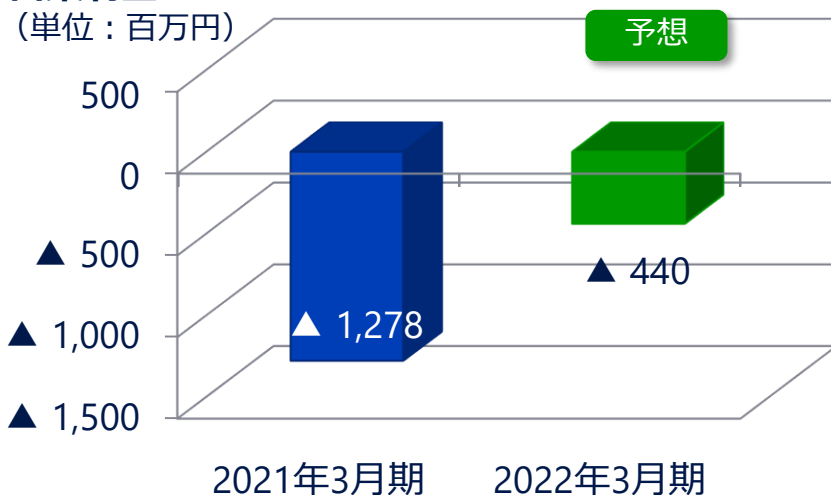
2022年3月期 予想

売上高 (前期比 + 7.2%)

営業利益 (前期比 + 838百万円)

営業利益

(単位：百万円)

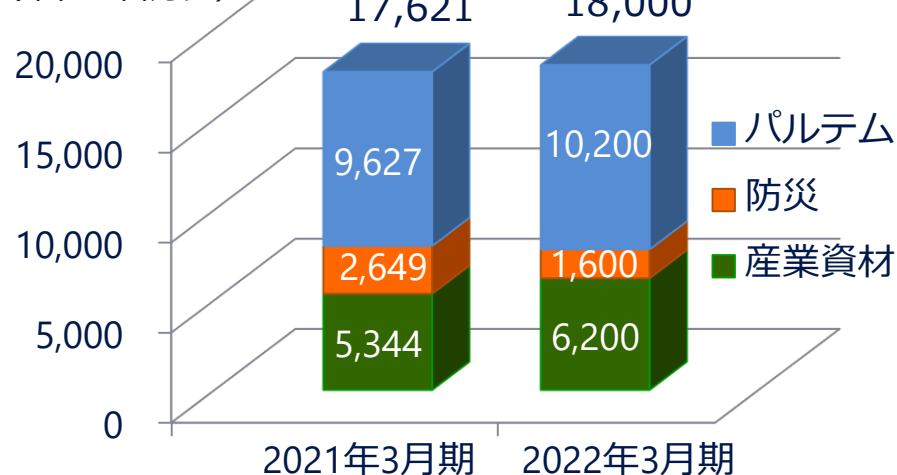


自動車産業は、CASEやMaaSと呼ばれる新領域での技術革新の進展など大きな環境変化の中にあるが、当社の製造する自動車安全部品については、将来を見据えた様々な変化・進化が求められながらも需要は着実に拡大するものと見込む。

全方位型の商品展開や開発ならびにサプライチェーンを見直し、経営資源を集中した商品開発と提案型営業、設計・製造・調達の緊密な連携による収益の向上、海外拠点を活かした販売と調達のグローバル化を推進する。

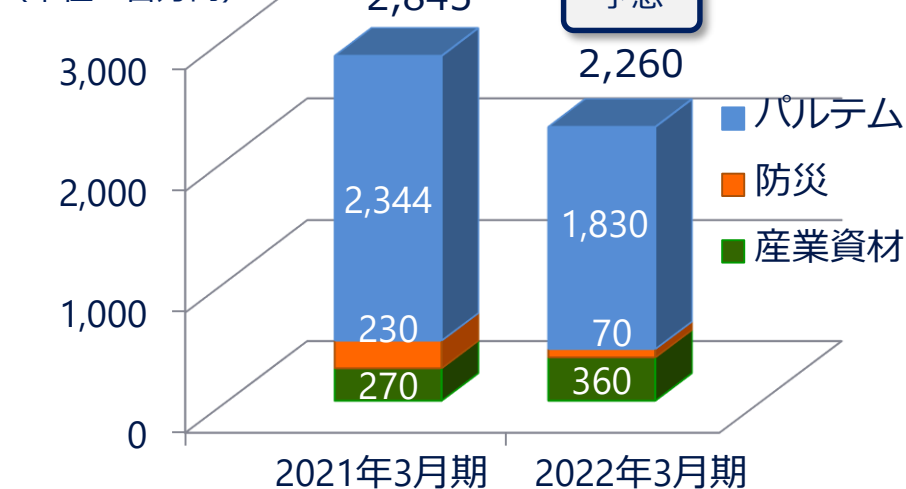
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



2022年3月期 予想

売上高 (前期比 + 2.1%)

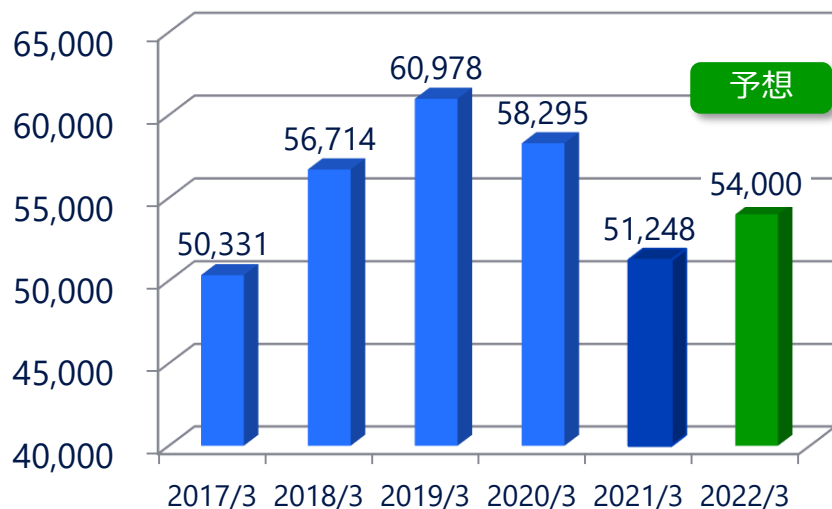
営業利益 (前期比 ▲ 20.6%)

自然災害による国内の防災・減災意識の高まり、国土強靱化政策を受けたインフラ強化といった流れから、今後も需要増加を見込む。しかし、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、来期は減益の予想。

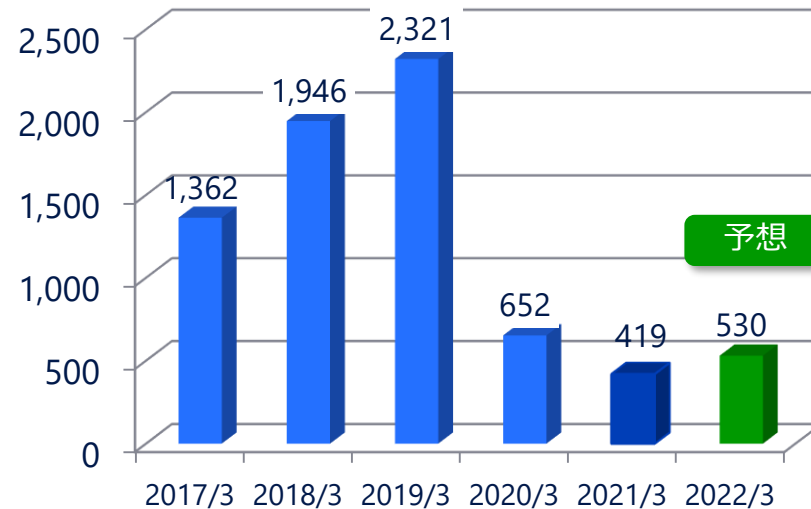
市場ニーズと当社の独自技術をマッチングさせた商品・システムの開発推進および既存技術の品質を向上させることにより、「総合インフラ防災メーカー」の地位確立に引き続き取り組む。

※パルテム(PALTEM)は、ライフライン(上下水道・ガス等)の管更生事業 Pipeline Automatic Lining system の略称。

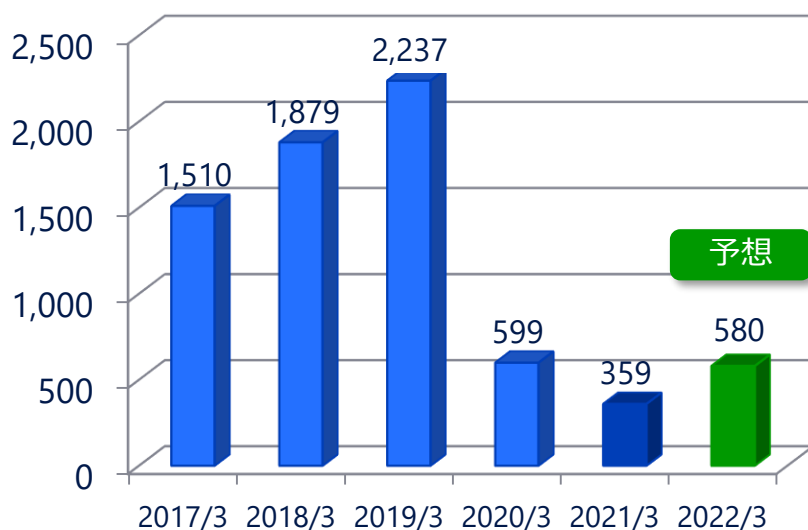
(単位：百万円) 売上高



(単位：百万円) 経常利益



(単位：百万円) 営業利益

親会社株主に帰属する
当期純利益

Ⅲ. 対処すべき課題

収益性を重視し、事業の基盤固めを行う

- 徹底したコストダウンの実施
- 責任者の明確化と収益の見える化
- 生産性・コストを意識した部門間連携の強化

経営資源の集中と開発・営業戦略の強化

- ターゲット顧客・ターゲット商品の絞り込み
- 小回りの利く顧客対応力・製造力の強化

自動車安全部品事業 重点施策

徹底した効率化による原価低減

技術力・品質力の向上による顧客視点の商品展開

情報の共有化によるグローバル全体最適の追求

機能製品事業 重点施策

パルテム関連

下水道分野の管更生需要への対応
上水道・農業用水分野での地位確立

防災関連

防災システムの提供
防災関連資機材の販売強化

産業資材関連

新規顧客開拓と新規開発
生産体制の再構築と効率化

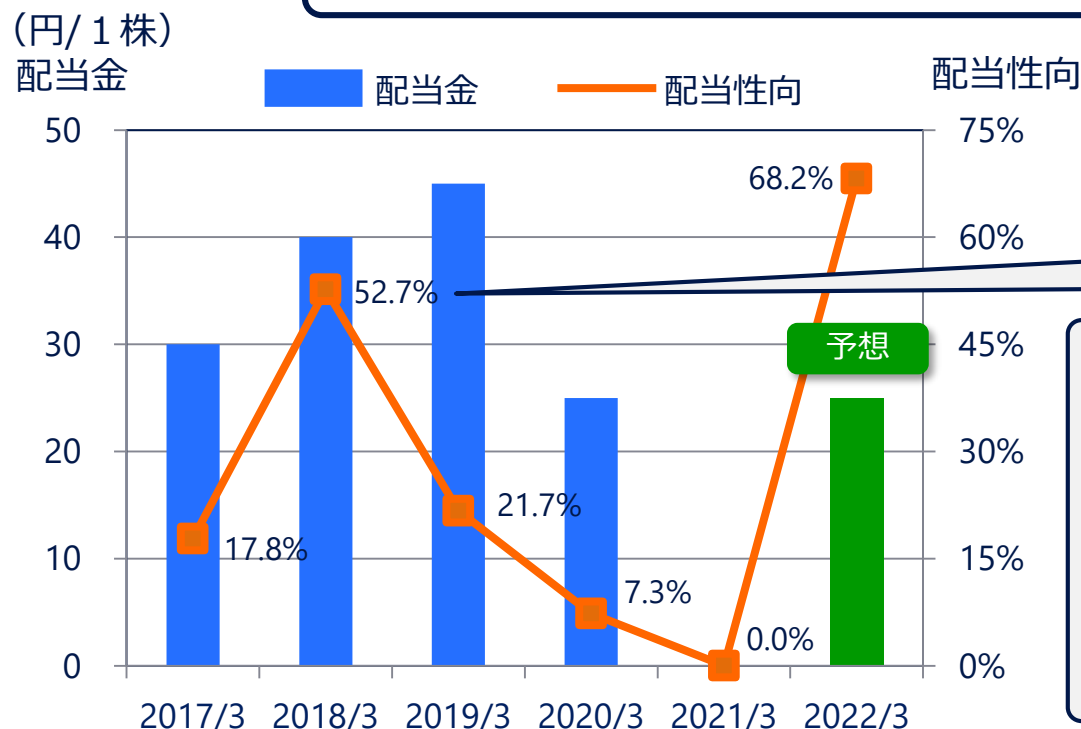
IV. 資本政策・株主還元方針

資本政策については、成長投資と安定的な株主還元をバランスよく配することを志向する。

成長投資については、中長期的な企業価値向上に向け、研究開発、設備投資、人材投資などを積極的に実行していく。

株主還元については、利益水準に応じて配当水準を決定することを基本方針とする。

2021年3月期は 1株当たり 0円 を予定



新型コロナウイルス感染症拡大による影響で当期の親会社株主に帰属する当期純利益は赤字となり、先行き不透明な状況のなか財務基盤の強化を図ることが重要と判断し、2021年3月期は無配とする予定。

	2017年3月期 実績	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2021年3月期 予定	2022年3月期 予想
連結自己資本比率（配当前）	34.9%	32.9%	32.2%	35.0%	34.7%	-
配当金（円/1株）*	30	40	45	25	0	25
配当性向（連結）	17.8%	52.7%	21.7%	7.3%	0.0%	68.2%

* 1株当たり配当金は株式併合後のベースで記載

V. その他

製品のご紹介（自動車安全部品事業）



シートベルト



電動シェード



エアバッグ



セパレーションネット

事業内容

自動車用シートベルト、エアバッグ、ステアリングホイール及び内装品などの製造・販売

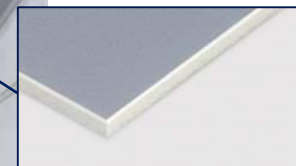
製品のご紹介（機能製品事業）



ブルーライン
システム
(給排水システム)



パルテム・フローリング工法
(管路更生工法)



結露防止シート
結露ブロック

事業内容

管路更生工法「パルテム」用材料・資機材及び土木資材などの製造・販売ならびに管路更生工事、
消防用ホース、産業土木用ホース及び防災関連資機材の製造・販売、
産業用繊維資材（合繊ロープ・帆布など）、物流省力化システム関連、及び墜落阻止器具

芦森グループ

社是・M V V（Mission・Vision・Value）について

- 社是**
1. 信用を重んじ、堅実を旨とする
 2. 人の和と開かれた心で活力ある企業を築く
 3. 創意を生かし、社業を通じて社会に貢献する

Mission “新しい価値”の提供で、社会に貢献する

Vision “安全・リニューアル”分野で技術をリードする
世界に通じる“Excellent Company”

Value “スピード”
“コミュニケーション”
“ストーリー”



ASHIMORI
POWERED BY
INNOVATION

本資料中の業績予想および見込みについての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

芦森工業株式会社 総務部

TEL : 06-6105-1680

MAIL : ir_madoguchi@ashimori.co.jp

HP : <https://www.ashimori.co.jp>